

# 経済諸会議の動向（１）

田中 修

## はじめに

本稿では、12月22日に開催された全国発展・改革工作会議の概要を紹介する。

### 1. 1年間の政策実施による新たな認識・体験

この1年、発展改革政策は新たな成果を得て、発展改革政策をしっかりと行うことにとって新たな認識・体験があった。

#### ①新常態に適応し、これを把握し、リードすることをより重視しなければならない

経済発展の新常態及び「3つの時期が重なっている」<sup>1</sup>ことについての認識を不断に深化させ、思想・行動を中央の重大判断と政策決定・手配に確実に統一させなければならない。

#### ②改革・イノベーションをより重視しなければならない

「五位一体」<sup>2</sup>の総体配置と「4つの全面」<sup>3</sup>の戦略配置を軸として、思想を解放し、開拓・進取の精神で、視野を広げ、考え方を刷新し、掘みどころ・プラットフォーム・媒体をうまく設計し、制度面の供給をより加速しなければならない。

#### ③前倒しによる計画をより重視しなければならない

現在に立脚し、経済社会発展における際立った矛盾・問題の解決に力を入れるだけでなく、長期を慮り、全局的・戦略的な重大問題を深く考察・検討し、重大プロジェクト・重大項目・重大政策・重大改革方案を前もって計画・準備し、政策の持続力を確固とし、政策の強靱性を増強しなければならない。

#### ④内外の統一的企画をより重視しなければならない

国際化の視野でグローバルに資源を配分し、グローバル市場を開拓しなければならない。

#### ⑤上下の連動をより重視しなければならない

系統組織の認識統一を強化し、合成力を有効に高め、系統組織の全体性・協同性を増強しなければならない。

### 2. 系統組織の責務

発展改革系統組織は、新常態に適応し、これを把握・リードし、新たな発展理念を貫徹実施し、深く学習し、深く思考し、深く実践しなければならない。

---

<sup>1</sup> 経済成長速度のギアチェンジの時期、構造調整の陣痛の時期・過去の経済政策の消化の時期が重なっていること。

<sup>2</sup> 経済建設・政治建設・文化建設・社会建設・生態文明建設・党の建設を一体的に推進すること。

<sup>3</sup> 小康社会の全面的実現、改革の全面的深化、全面的な法に基づく治国、全面的な厳しい党の統治である。

- ①重大な基本原則を堅持し、経済建設を中心とすることを動揺させない。
- ②イノベーション・協調・グリーン・開放・共に享受という 5 大発展理念を堅持し、社会生産力水準の全面的改善を推進する。
- ③需要により供給のイノベーションを牽引することを堅持し、サプライサイド構造改革を推進する。
- ④イノベーション駆動による発展を堅持し、経済の質・効率の向上とグレードアップを促進する。
- ⑤改革の深化・開放の拡大を堅持し、経済発展の新常態をリードする体制メカニズムを確立する。

### 3. 2016 年の政策の基本的考え方

2016 年の発展改革政策は、「五位一体」の総体配置と「4 つの全面」の戦略配置に基づき、経済発展の新常態に適応し、これを把握・リードすることを軸としなければならない。

#### (1) 安定の中で前進を求めるといふ政策の総基調を更に堅持しなければならない

安定成長・構造調整・民生優遇・リスク防止を堅持し、マクロ政策を安定させ、産業政策を精確にし、ミクロ政策を活性化させ、改革政策を実効あるものにし、社会政策で底固めするという政策の 5 本柱をしっかり把握し、経済運営が合理的区間にあることを確保しなければならない。

#### (2) マクロ・コントロールの考え方・方式を更に刷新しなければならない

区間コントロールの基礎の上に、方向を定めたコントロール・タイミングを見計らったコントロールを強化し、潜在力の発掘・効率の向上を通じて、アンチシクリカルな調節を強化し、市場行為と社会の心理・予想の誘導をより重視して、政策の透明度と予測可能性を増強し、マクロ・コントロールの科学性・技術性を高めて、経済発展のために良好な環境を創造しなければならない。

#### (3) サプライサイド構造改革を更に強化しなければならない

構造改革の方向性を正確に位置づけ、農業の現代化を推進し、製造強国の建設を加速し、サービス業の発展を加速し、インフラのネットワーク化水準を高め、総需要を適度に拡大すると同時に、生産能力を削減し、在庫を削減し、脱レバレッジを進め、コストを引き下げ、不足を補充して、供給体系の質・効率を高め、投資の有効性を高め、低水準の需給バランスから高水準の需給バランスへと飛躍させなければならない。

#### (4) 改革・イノベーションに更に依拠して新たな動力エネルギーを育成しなければならない

重点分野の際立った矛盾・問題を解決することを軸に、重大な牽引作用を備えた改革措

置を優先的に打ち出し、市場の活力と社会の創造力を奮い立たせなければならない。

#### (5) 都市・農村、地域の協調・協同発展を更に促進しなければならない

地域の発展構造を引き続き最適化し、協調発展の中で発展の空間を開拓し、発展の新空間を用いて発展の新たな動力を育成し、内需の新空間を開拓しなければならない。

#### (6) 国内・国際の2つの大局を更に統一的に企画しなければならない

「シルクロード経済ベルト・21世紀海のシルクロード」建設を引き続き推進し、国際的な生産能力・装置製造協力、周辺インフラの相互連結という2つの最重要な摺り合い所・プラットフォームをうまく用いて、国際競争の新たな優位性を育成し、経済発展の新空間を開拓し、第13次5ヵ年計画の良好なスタート・歩み出しを確保しなければならない。

### 4. 2016年の重点政策

主として、8方面が含まれる。

- ① 精確に力を発揮し、経済運営を合理的区間に維持する。
- ② カギとなる部分にしっかり取り組み、サプライサイド構造改革を早急に推進する。
- ③ イノベーション駆動により、大衆による起業・万人によるイノベーションを深く展開する。
- ④ 堅塁を攻略し困難を克服して、経済体制改革を深化させる。
- ⑤ 施策を統一的に企画し、都市・農村、地域の協調・協同発展を促進する。
- ⑥ ボトルネックを突破し、グリーン・循環・低炭素の発展を促進する。
- ⑦ 内外を統一的に企画し、よりハイレベルの開放型経済を発展させる。
- ⑧ 最低ラインをしっかり守り、民生の保障・改善に力を入れる。

### 5. 第13次5ヵ年計画

第13次5ヵ年計画期間は、小康社会の全面実現の決勝段階であり、小康社会の全面的実現は、「2つの百年」奮闘目標<sup>4</sup>の最初の百年目標であり、第13次5ヵ年計画の意義は尋常とは異なる。

発展改革系統組織は、第13次5ヵ年計画「要綱」をしっかり編制・実施し、小康社会の全面的実現の任務・措置を確実に実施しなければならない。

- ① 党18期5中全会精神を真剣に貫徹し、5大発展理念の新要求を全面的に体現し、計画の展望性・指導性を高める。
- ② 成功経験を整理・総括し、計画編制の考え方・方法を刷新し、広く指導を請い策を求めるところを重視し、計画編制の門戸を開いて、計画の科学性・操作可能性を増強する。

---

<sup>4</sup> 共産党創立百年で小康社会を全面的に実現し、建国百年で中国を富強・民主・文明的で調和のとれた社会主義現代国家とする。

- ③重大政策・重大プロジェクト・重大項目を深く実施し、全局性・模範性・牽引性を際立たせ、確実に持続力を増し、不足を補い、バランスを促し、水準を高める。
- ④目標・指標を科学的・合理的に設置し、「2つの倍増」<sup>5</sup>の要求を体現するだけでなく、各方面の支えとなる条件を十分考慮しなければならず、政策の重点を発展方式の転換・構造調整・民生優遇に確実に誘導する。
- ⑤国家計画を地方計画としっかりリンクさせ、総体計画を特別計画としっかりリンクさせて、第13次5ヵ年計画体系を更に好く形成する。

(1月8日記)

---

<sup>5</sup> 2020年に2010年のGDPと個人所得を倍増する。